

2014 年 IPC 世界パワーリフティング 選手権大会

文・写真：IPC 国際審判
吉田進（写真） 寿子（文）

パラリンピックに参加するには

国際パラリンピック委員会では、「4年サイクル」競技会を実施している。

- 1□ IPC 公認大会で世界選手権参加標準記録を獲得する年
- 2□ 世界選手権に参加する年
- 3□ IPC 公認大会で、世界ランキングを上げる年
- 4□ パラリンピック



このような4年サイクルが生まれたのは、何よりもアンチドーピング姿勢を打ち出すためだ。例えば、ロンドンパラリンピックで、金メダルを量産したある国は、パラリンピック前の二年間、国際舞台に出ていない。

ロンドンパラリンピックでは、その4年前の北京パラ以降、ロンドンの申し込みメットまでに、世界ランキング上位にいれば良かったので、ある国の選手は、北京終了後、世界のトップ10くらいの記録を出しておき、残りの二年間は国際舞台から消えた。どうしているのかと思っていると、ロンドンでは、金メダルを量産。

これは、何かある、と、ロンドン以降に打ち出されたのが、「4年サイクルシステム」。毎年、国際大会に出場させることが目的で、これは、抜き打ち並びに競技会ドーピング検査をどの選手にも毎年、徹底的に実施するためだ。特に、パラリンピックではパワーリフティングが一番多くのドーピング違反者を出している。IPCは、そん

なパワーリフティングにおける、ドーピング違反者をなくすることが大きな目標になっている。そのため、IPC は、国際大会の度に、各国ごとにドーピング講習会を開催し、採検検査や、競技会内検査の徹底に力を入れている。2015 年からは、ドーピング違反選手、そのコーチ、そのドクターにも同じ罰則が適用され、一度の違反で 4 年間の資格停止となる。（これは WADA のルールなので JPA 所属選手にも同じ罰則が適用されることになる。）ただし、IPC は、IPF のように、国を失格にするということではなく、あくまでの、個人への罰則が適用される。

リオ・パラリンピックへの道

1、2013 年、世界選手権参加標準記録を突破する機会をできるだけ日本選手に提供するために、IPC パワーリフティングの代表を日本に呼び、IPC 公認国内審判員試験を実施し、13 名の IPC 審判員が誕生した。これにより、日本選手は、日本国内の 2 つの大会で参加標準記録突破のチャンスが生まれ、更に、国際大会に選手を派遣し、世界標準突破選手の獲



得に努めた。

2、2014 年、8 名の選手が世界標準を突破し、IPC 世界パワーリフティング選手権大会に参加した。リオパラリンピックへは、この世界選手権に参加した選手しか参加できないので、日本でも、この 8 名が、今後、いかに記録を伸ばすか、という課題に取り組み、リオパラリンピックへの道が開ける。

3、世界選手権終了後（2014.4.12）からリオパラリンピック申し込み締切（2016.2.25）までに、二つの国際選手権に参加し、パラリンピック標準記録の突破と、世界ランキング上位入りを果たす。

4、リオパラリンピック開催。

日本新記録をマークした大堂選手（上）と三浦選手（下）

今回の世界選手権の結果は、次の通り；

女子45kg級	小林浩美（福岡県）	9位	65kg	
男子49kg級	三浦浩（東京都）	11位	130kg	日本新記録
男子54kg級	西崎哲男（大阪府）	15位	126kg	日本新記録
男子65kg級	城隆志（大分県）	15位	125kg	
男子72kg級	佐野義貴（神奈川県）	15位	130kg	
男子80kg級	宇城元（千葉県）	7位	182kg	
男子88kg級	大堂秀樹（愛知県）	9位	196kg	日本新記録
男子88kg級	斉藤伸弘（北海道）	25位	135kg	

選手の4/12（世界大会終了の翌日）からの頑張りで、パラ標準突破、世界ランキング上位獲得、そして、リオパラリンピックへの道が開ける。8人全員がリオに選考されることを願いたい。

審判員として参加して

今回、吉田進、吉田寿子の二名がIPCから審判指名を受け、世界大会の審判を努めた。審判は、どの国際大会もIPCの指名によって参加者が決まり、指名がなければ、どれだけ審判をしたくても、審判が出来ないシステムになっている。

審判として、選手の試技を見ていたが、その判定は、大変厳しく、少しのブレもゆるされない。IPCでは選手に対して公平であるようにと、舞台上の3人の審判とともに、陪審員が5名いて、その5名も審判と同様に判定ランプを押す。ただし、陪審員の判定は、観客からは見えない。この判定は、とても、興味深く、陪審員に入った時に、統計をとってみた。

判定する8名の審判が完全に一致した判定は、たった25%しかなかった。つまり、全部の試技のうち3/4は成功とする審判と、失敗とする審判が割れていた。人間の判断する判定なので、各人が各様に判定し、3人の判断で、選手の試技が失敗となるか、成功となるかが決まってくる。

一番驚くのは、「上がらなくて失敗」という選手がほとんどいないことだ。私の入ったセッションでは、1人か二人、割合にして2%くらいしか「上がらない」という試技をする選手はいない。

判定が厳しいので、選手たちは、ぶれなく、綺麗にあがる重量を選び、決して、一か八か、というような重量選択はしない。これは、健常者のベンチ大会と、一番異なる点だ。



1、2本失敗した佐野選手（左）と斉藤選手（右）、二人共3本目に成功、記録に不満、まだまだチャンスはあるぞ！頑張れ、頑張れ！

東京パラを目指すには

東京パラを目指したい選手がおられたら、ぜひ、今から3年間の間に、JDPFの主催する大会（西日本、全日本、兵庫県交流会、兵庫県ベンチ）に参加していただきたい。そして、実力をJDPFが認めた選手を国際大会に派遣するので（一部助成あり）、そこで、「クラス分け」という、障害者の大会に参加するに足る障害があるかどうかを、専門医に判断してもらい、障害者大会参加承認を受けて欲しい。

その上で、世界選手権標準記録を突破し、2018年9月開催のIPC世界パワーリフティング選手権大会（クアラルンプール、マレーシア）参加権利を獲得していただきたい。

東京パラリンピックを目指すには、まず、この2018年の世界選手権に参加することが、第一歩を踏み出すことになる。

障害者パワーリフティングに興味をもっていただける方、できるだけ多くの方、ぜひ、チャレンジしていただきたい。

IPC パワーリフティングの階級と標準記録

男子	世界標準	パラ標準	女子	世界標準	パラ標準
49kg 級	100kg	105kg	41kg 級	55kg	57kg
54kg 級	110	115	45kg 級	57	60
59kg 級	120	125	50kg 級	60	62
65kg 級	130	135	55kg 級	62	65
72kg 級	137	142	61kg 級	65	67
80kg 級	145	150	67kg 級	67	70
88kg 級	152	157	73kg 級	70	72
97kg 級	160	165	79kg 級	75	77
107kg 級	167	172	86kg 級	80	82
107kg 以上級	175	180	86kg 以上級	85	87



日本選手団、全員、リオを目指せ！